

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171401540		
法人名	有限会社 北邦工藤建設工業		
事業所名	グループホーム さらさの杜		
所在地	函館市安浦町364番地2		
自己評価作成日	平成23年3月18日	評価結果市町村受理日	平成23年6月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居されている方一人ひとりの立場に立ち、安心して生活できる環境を築きたいと考えています。そのために研修委員会、行事委員会、事故防止委員会等の活動も含め、問題点や改善点を職員全員で共有し質の向上に努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0171401540&SCD=320
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成23年3月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年に南茅部地区唯一のグループホームとして開設した「さらさの杜」は、施設長や管理者を中心に、介護の原点として理念の掘り下げが進み、各委員会活動や研修の充実を図りながら、統一された方向でのケアサービスを目指しています。ホームには、地域の6つのボランティアの定期訪問や行事協力があり、利用者や地域の方々の交流も年々増加してきています。また児童、生徒の体験学習の受け入れや、管理者が小学校で認知症についての講話を行うなど、利用者はもとより、地域の認知症の方や家族も安心して暮らして欲しいという想いの下、認知症の理解啓発にも力を入れています。豊かな自然と調和した明るく開放感のある施設内には、ゆったりとした時間が流れ、利用者や職員の和気藹々とした雰囲気が垣間見ることが出来ます。職員は利用者の高齢化や状態変化等に向けて、更に介護力のレベルアップを意識して研鑽に努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホールやユニット等に掲示し、常に意識しながらケアに生かせるようにしている。	開設時に、介護に何が重要かを協議して掲げた独自の理念は、サービスの基本として、会議や新人研修などで共有する機会を設け、実践に繋がっています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地元ボランティア団体の訪問や小学校の児童たちとの交流を行を行っている。また、地元のお祭りなどに参加したりして地域とのつながりを強くしている。	地域の唯一のグループホームとして、認知症の理解やホームの啓発に努力しています。町内の様々な方々との交流が深まり、地域に開かれた運営が実践されています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校からの依頼により認知症の講話を行うなど、認知症についての理解を得てもらおうとつとめている。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、地元町内会及び家族、包括支援センター、保健所に出席していただいている。生活状況や行事活動等の報告を行い出席者との意見の交換をしサービスの向上に生かしている。	昨年度は2ヵ月毎に開催し、家族代表や町内会会長、包括支援センター担当者や保健所職員などの出席で、ホームの現状や活動、災害対策などを報告し、意見交換を行い、運営に反映しています。	前年度からの課題となっているメンバーの拡大については、取り組みの過程にありますので、家族も含めホームに関わる多くの方々に参加を働きかけ、多様な意見をいただきながら、更に運営などに反映するよう期待します。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	福祉課、保健所、地域包括支援センターとの連携に努めサービスの向上に努めている。	行政との密接な関係は、地域の特性として利用者に反映されており、運営面や介護業務、利用者の生活全般について、情報交換や助言を得て、質向上に繋がっています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行わないことを基本とし、身体拘束マニュアルを職員全員に周知徹底し定期的に研修会議等で確認している。	身体拘束防止のマニュアルを整備し、玄関の施錠も含めて研修で意識統一を図っています。日々のケアでは、特に言葉の抑制について注意し合い、利用者の立場に立った視点を心掛けています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設け虐待防止について日々周知徹底し活動している。また、研修会を定期的に開催しマニュアル等を確認し虐待の防止につとめている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部・外部研修に参加し制度について勉強している。現在は対象者はいないが、対象者があった場合は対応できるように体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前面接や入所時の手続きの際にも説明し、疑問点や質問等を伺い、十分説明することで理解して頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時、カンファレンス時に利用者やご家族から意見や要望を聞き運営に反映されるようつとめている。	家族の面会や電話の際に、近況を報告しながら、気さくに話し合える関係を大切に対応しています。要望等は、速やかに具体的に対処し、家族の安心になっています。	ホームでは、利用者の日々の暮らしぶりについて、写真を掲載した報告を考えていますので、家族が知りたいと思われる内容を検討しながら、定期的な「便り」の発行に取り組むよう期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議や職員会議、ユニット会議を適宜開催し職員と意見交換を行っている。その中で職員からの提案や意見を聞き運営に反映させている。	新人職員からは、採用時研修やOJTを活かした指導の中で意向を聞き、職員の意見や提案は、各会議の中で吸い上げ、働きやすい職場作りや運営への反映に努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、それに沿って給与水準等考慮している。職員もそれを理解し向上心を持って働いている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を定期的に行い職員のスキルアップを行っている。また、外部研修や資格取得についても希望に添うよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会等の会議や交流会等に参加し交流を深めている。また、ブロック単位の勉強会や相互訪問の開催を計画している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があった場合は、直接本に会って話を聞いたりして困っていることや不安なことを把握すよようつとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談した際に苦勞していることや不安なこと、困っていることを話してもらい理解することにより、より良い関係を築くことにつとめている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要と思われる場合は、他のサービス事業所に連絡するなど柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として敬う気持ちを忘れず、私たちが知らない事を教えてもらう場面もあり、良い関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	普段離れても見えない部分も多いので日頃の生活状況や体調等の報告をしたり、相談したり協力を得るなど良い関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居してからも馴染みの関係が築かれるよう家族にも協力して頂き関係継続に努めています。	入居前の友人や近隣の方々の来訪や、地域の文化祭に利用者が出展するなど、今までの関係性の維持や継続を支えています。家族の協力で墓参や自宅に帰宅しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団生活ですから時にはトラブルもあり、一時的に孤立するケースあるも、スタッフのサポートにより仲良く生活出来る様支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、他事業へ移られても連絡をとりあったり、必要があれば移られた先の施設との情報交換を行ったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活歴を把握し、日々の関わりの中で希望や意向を引き出したり把握するよう努めている。	基本情報として、生活歴などは全職員で共有し、日常の中で利用者の全体像から、小さな気付きを積み重ねて把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や関係者から情報を集めたり、本人とのコミュニケーションの中から生活歴や環境を知るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや申し送り、スタッフの日常での目配りや気配りにより利用者の変化を把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行い、利用者が自分らしく生活できるようご本人・ご家族の要望を聞きながら気づいたことや対策があるときは介護計画に反映させている。	利用者の安心感や落ち着いた生活を重視し、定期カンファレンスで評価、見直しを行い、利用者、家族の意向を盛り込み、現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいたこと等は申し送りをするなど、業務に入る前に必ずスタッフが情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の要望に応じ、面会時の外出・お正月やお盆帰省を行う等、柔軟な支援に取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	普段から近隣住民とコミュニケーションをとり、緊急時には支援していただくよう働きかけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に添った受診を行っている。また、かかりつけ医と良好な関係を築き緊急時にも適切な医療が受けられるよう支援している。	毎週の往診の他、かかりつけ医の受診は職員が同行支援しています。医師や看護師とは、日常的な助言や緊急時、入院なども指示を得られる密な関係が築かれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は確保していないが、かかりつけ医の看護職員に気軽に相談に乗って頂いており、利用者は個々に適切な受診を受けられるよう支援しています。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は日常生活の情報を提供し、又、病院を小まめに訪問し入院での状況確認する、医師や看護職員とカンファレンスを持つ等病院関係者との関係作りを行っています。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時やカンファレンス時にADL低下に伴い医療（治療）が継続的に必要になった場合の家族の意向を確認し、利用者がそのような状態になった場合はスタッフにも家族の意向を説明し情報を共有した支援を行っています。	契約時や状態変化に応じて、ホームで出来る対応を説明し、家族と話し合い、医療関係者や職員と情報を共有しています。終末期の支援は行っていませんが、職員は研修でターミナルケアについて学んでいます。	利用者、家族の不安の一つに、終末期の過ごし方が上げられます。ホームの現状を踏まえて、重度化した場合や終末期について、出来る対応などを具体的に明文化した指針を作成し、それを基に話し合い、方針の統一に繋げるよう期待します。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ全員が応急手当の講習を受けている。また、事故発生時等のマニュアルを作成し周知徹底している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害時のマニュアルを作成している。また、避難訓練を年2回実施し近隣住民も参加していただき利用者の避難方法を身につけるよう努めている。	年2回消防署の指導で、夜間想定避難訓練を実施しています。住民の方々の協力も得られており、地域の有線放送は迅速な連絡が可能で、心強い体制が敷かれています。	スプリンクラーが設置され、防災を意識して取り組んできていますが、更に、地域性から考えられる様々な災害に対する対策の検討や、いざという時に確実に避難できるよう、実践的訓練を重ねることを期待します。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフ一人一人気を付けて不快無く生活して頂ける様支援しています。（プライバシー保護のマニュアル参照）	日頃より管理者は、職員に個人情報保護の姿勢を求め、徹底に努めています。日々の関わりでは、利用者の人格の尊重を意識し、配慮ある対応に取り組んでいます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択する機会を設けたり、1つ1つ確認しながら事故決定して頂けるよう配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースに合わせて心掛けています。体調や気分を考慮しながらサポートしています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	メイクをしたり、拭くをコーディネートしたりと個人で身だしなみ・おしゃれをされています。できない方にかんしてはスタッフがリードしその人らしいおしゃれができるようサポートしています。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好き嫌いを把握して美味しく召し上がって頂ける様支援しています。又、米研ぎ・下ごしらえ・洗い物・拭きものなど利用者と一緒に進めている。	食事の準備は一緒に行い、和やかに食事を摂っています。病人食の他、好みや味付け、形態の変更に留意し、代替食も用意して、美味しい食事に気を配っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量・水分量チェックし把握に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声がけし、出来ない方は見守りや介助にてケアを行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄感覚を把握し声がけ・誘導を行っています。自分で出来る方へも声がけし確認を行っています。	排泄のリズムを把握し、衛生用品は、利用者を確認しながら適切に使用しています。排泄の自立支援に努め、失敗にもさりげなく対処し、利用者の心情に配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を提供したり、排泄時腹部マッサージを行う、それでも排便が見られない場合は医師の指示のもと下剤を服用しています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声がけし、本人の意志のもと入浴しています。拒否された場合は清拭や更衣を行い清潔に努めています。	入浴は利用者の希望に合わせて柔軟に対応し、清拭も交えて入浴を支援しています。拒む時は、無理強いせず促し工夫しながら、個別の働きかけをしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意志にて入室し休まれています。1回/Wシーツ交換し寝具類の清潔に努め気持ちよく休めるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	拭く薬時、手渡し・見守りにて服薬しています。バイタル測定・身体観察を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手伝いやレク等を行い気分転換出来る様に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物希望の方は、一緒に出掛け、買い物がない方も気分転換にとお誘いし、できるだけ施設内に籠もらないよう支援しています。(夏場は散歩・ドライブ・草取りなど)。	戸外に出る事を工夫し、希望の外出を始め、買い物に誘い合い、東屋での昼食や菜園の手入れに出たり、近くの運動公園を皆で散策しています。ドライブや外食の機会も持っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段買い物へ行く事もあるので、お金の管理を一部支援のもと行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で新年の挨拶や日常に於いても手紙や電話のやりとりはおこなっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気持ちよく利用して頂けるよう常にきれいにし、季節に応じてホールに飾り物を設けるなど明るく生活して頂ける様工夫しています。	天窓からの陽差しが明るく、ゆったりとした家庭的な環境です。畳の小上がりや玄関横のギャラリーは、利用者の暮らしが豊かになるよう、工夫して活用しています。温湿度も適宜調整し、清潔に保たれ心地良い空間になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを設けたりホール内自由に生活し交流して頂ける様工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使用していた家具や写真等を置きくつろぎ・安らげるスペースになっています。	使い勝手の良い洗面台や物入れが備えられ、車椅子でも十分な広さも確保されています。利用者の馴染みの品々が持ち込まれ、落ち着ける居室の工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺が設けられており、歩行時使用される方もいて安全が図られトイレには目印も設ける等し、迷わず通う事が出来る様工夫しています。		